

## 体育学習における期待・感情、学習意欲、 学習行動、体育の成績の関係

Causal relations among expectancy and affects, achievement  
motivation for learning, learning behavior, and scores in  
physical education class

西 田 保\*

Tamotsu NISHIDA\*

This study examined causal linkages among perceived expectancy and affects, achievement motivation for learning, learning behavior, and scores in physical education class. The questionnaires concerning the perceived expectancy and affects, and the achievement motivation for learning in physical education were administered to 330 fifth and sixth grade pupils. The learning behavior and the scores in physical education were obtained by teacher's ratings. The path analyses applied to the data revealed the assumed causal linkages among the factors. These results, namely, showed that the perceived expectancy and affects influenced the achievement motivation for learning in physical education, the achievement motivation for learning influenced the learning behavior, and eventually the learning behavior determined the scores in physical education class.

### 緒 言

西田・澤<sup>10)</sup>は、従来の内発的動機づけや学習意欲の認知論的な立場からの研究や理論を踏まえたうえで<sup>2,3,4,12)</sup>、体育における学習意欲を規定する期待・感情モデル (Expectancy-Affect Model : EAモデル) を提起している。このモデルの基本的な考え方は、体育における学習意欲を規定している中核となる一次的要因は、体育学習での成功や能力向上への期待と、体育の授業や運動場面で生じる感情であるという点である。また、これらの期待や感情は、二次的要因である現在の運動参加、過去の運動経験、体育教師との関係、友人との関係によって支えられ、それらの二次的要因は、三次的要因である親子関係、身体的健康、精神的健康、学習・運動環境によって規定されているというものである。そして、小学校5・6年生を対象としたパス解析の結果から、このモデルの妥当性

を大枠として支持している。

さて、体育学習の場面で学習目標が提示されると、児童・生徒はどのような過程を経て具体的な学習行動を行ったり、次の行動をとっていくのであろうか。この観点からすると、図1のような過程が想定されるであろう。まず、①体育の学習場面で具体的な学習目標 (刺激) が提示される。サッカーの授業であれば、ボールの正しい蹴り方やゲームの仕方などである。それによって、②与えられた学習課題がうまくできるのだろうか、その学習は楽しいだろうかといった期待や感情が生まれる。学習目標という刺激の認知面や感情面への影響である。③それらは体育における学習意欲といった動機づけレベルに影響を与えていく。この過程は、EAモデルに依拠したものである。このようにして学習意欲が喚起されると、④顕在的な学習行動が行われる。学習方法をあれこれと工夫したり、うまくなるために一生懸命頑張るといった行動

\* 名古屋大学総合保健体育科学センター

\* Research Center of Health, Physical Fitness and Sports, Nagoya University

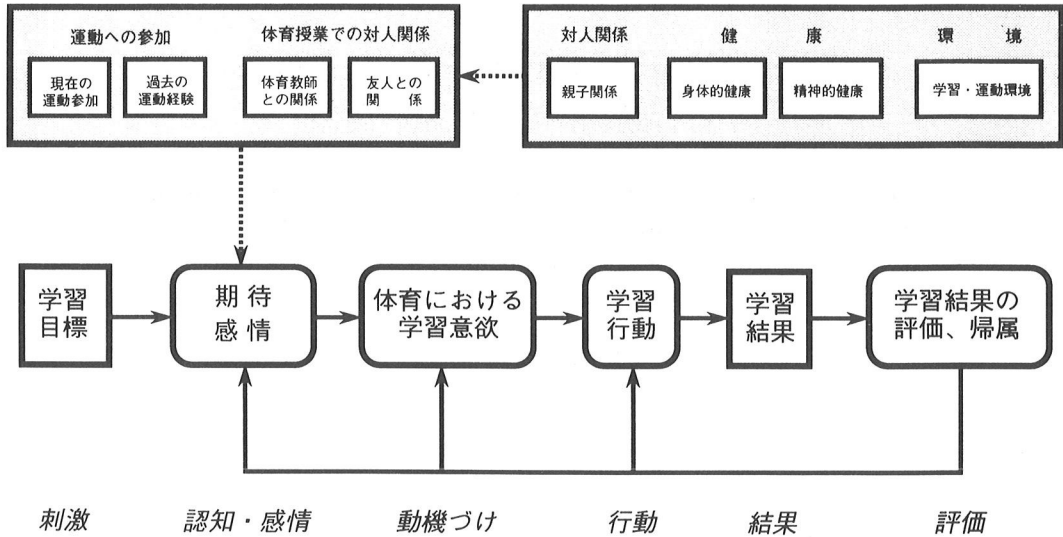


図1 体育における学習意欲の喚起モデル

などである。その結果として、⑤それらの行動による学習結果が得られる。学習目標が達成できたかできなかったか、成功であったか失敗したのかなどである。その時、⑥得られた学習結果に対して評価を与えたり、原因帰属を行ったりする。なぜうまくできなかったのだろうか、次はどうすればよいのだろうかといったものである。そして、⑦それらの評価は、認知・感情レベル、動機づけレベル、行動レベルに影響を与えていくものと考えられる。なお、ここで取りあげた「刺激→認知・感情→動機づけ→行動→結果→評価」という一連の系列は、Atkinson<sup>1)</sup>やWeiner<sup>13,14)</sup>の達成動機づけの枠組に準拠したものである。

そこで、本研究では、前述した体育における学習意欲の喚起モデルを検証する最初のステップとして、期待・感情の喚起から学習結果までの過程を検討することとした。すなわち、本研究の目的は、体育の学習場面で生じる期待や感情が体育における学習意欲に影響し、その学習意欲が体育の授業中の学習行動を、そしてその学習行動が体育の成績という学習結果にどのように影響していくのかを調査的に検討し、期待および感情→学習意欲→学習行動→体育の成績

といった一連の因果関係を明らかにすることである。

## 方 法

### 1. 調査対象者

対象者は、小学校5年生および6年生の男子151名、女子179名の計330名である。

### 2. 調査時期

調査は、1992年7月に実施された。

### 3. 調査内容

#### (1) 体育における学習意欲検査 (AMPET)

西田<sup>7,8,9)</sup>による体育における学習意欲検査を用いた。この検査は、質問紙による自己評定尺度であり、児童・生徒の体育における学習意欲の強さを測定するものである。測定する内容は、体育学習への意欲的側面（学習ストラテジー、困難の克服、学習の規範的態度、運動の有能感、学習の価値）と回避的側面（緊張性不安、失敗不安）の2つに分かれている。検査項目は、各下位尺度8項目とL尺度8項目の計64項目である。具体的な項目は原文を参照されたい。各項目への反応は5段階で行われ、「よくあてはまる」に5点、「ややあてはまる」に4点、

「どちらともいえない」に3点、「あまりあてはまらない」に2点、「全くあてはまらない」に1点が与えられた。そして、AMPETの意欲的側面の合計点を意欲得点、回避的側面の合計点を回避得点と呼び、以下の分析に適用した。つまり、本研究では、体育における学習意欲を意欲的側面と回避的側面に分けて検討した。

## (2) 体育学習での期待および感情

これまでの諸研究を参考にしたうえで<sup>5,6,10,11)</sup>、以下の内容のものが取りあげられた。質問項目は、資料に示されている。

### 〈期待〉

体育の運動が現在どのくらいうまくできるのかという「現実の期待」と自分の運動能力や成績が将来向上するのだろうかといった「将来の期待」の2つに分かれている。そして、これらを、期待水準（期待の程度）と期待確信度（期待の確かさ）の2つで質問した。従って、本研究の期待は、以下のように2×2の4つに分類される。項目数は、各7項目の計28項目であった。

- ①現実の期待水準      ③将来の期待水準  
②現実の期待確信度    ④将来の期待確信度

これらの質問に対する応答は、期待水準の場合、「ほとんどできると思う（5点）」から「ほとんどできないと思う（1点）」までの5段階であり、期待確信度の場合は、「非常に強くそうだと信じている（4点）」から「あまり信じていない（1点）」までの4段階であった。

### 〈感情〉

体育の授業や学習課題に対して抱いている「現実感情」と、将来の体育授業や自分の能力に対して予想している「予期感情」に分かれている。感情の内容は、一般的な正の感情、負の感情、誇り、落胆・恥の4つであった。従って、本研究での感情は、次のように2×4の8つに分類される。項目数は、各5項目の計40項目であった。

- ①正の現実感情      ⑤正の予期感情  
②負の現実感情      ⑥負の予期感情  
③現実の誇り        ⑦予期の誇り  
④現実の落胆・恥    ⑧予期の落胆・恥

これらの質問に対する応答は、「よくあては

まる（5点）」から「ほとんどあてはまらない（1点）」までの5段階であった。

## (3) 体育の授業での学習行動

体育の授業中に生徒がどのような学習活動を行っていたのかを、体育の先生に以下の3項目で評価して頂いた。

- ①体育の授業中、やり方をあれこれと考えながら運動している（学習方法の工夫）  
②体育の授業中、うまくなろうと一生懸命頑張っている（学習への努力）  
③体育の授業中の運動量は、どれくらいでしたか。

いずれも5段階評価である。①と②の項目には、「よくあてはまる」に5点、「ややあてはまる」に4点、「どちらともいえない」に3点、「あまりあてはまらない」に2点、「全くあてはまらない」に1点が与えられた。③の項目には、「かなり多い」に5点、「やや多い」に4点、「普通」に3点、「やや少ない」に2点、「かなり少ない」に1点を与えた。そして、これら3項目の合計点を学習行動得点として以下の分析を行った。

## (4) 体育の成績

学習行動の結果を示すものとして、体育の成績を用いた。すなわち、生徒の体育の成績を、体育の先生に5段階（1～5点）で評価して頂き以下の分析を行った。

## 4. 調査方法

AMPETと期待および感情については、学級担任を通してクラスごとに実施した。学習行動と体育の成績については、体育の先生に評価を求めた。

## 結果および考察

### 1. 体育学習での期待および感情項目の分析

本研究では、期待が4領域、感情は8領域に分かれている。まず、各項目の内的整合性を検討するために、それぞれの領域の尺度得点と各項目との相関係数を求めた。その結果、いずれの項目も比較的高い有意な相関（.588～.935）を示したので全ての項目を採択した。

次に、それらの項目に対して、期待および感情別に主因子解による因子分析を適用したところ、期待は2因子、感情には4因子が抽出された。これらの全分散比は、それぞれ52.3%、69.5%であった。そして、ノーマルバリマックス回転後の因子負荷量.50以上の項目を中心に、それぞれの因子を解釈し命名した。回転後の因子負荷量は、表1と表2に示されている。その結果、期待においては、第1因子が「期待水準」、第2因子は「期待確信度」と命名された。感情は、第1因子が「落胆・恥」、第2因子が「負の感情」、第3因子が「正の感情」、第4因子が「誇り」とそれぞれ命名された。本研究では、期待および感情とも、現実（現在）の項目と将来（予期）の項目に分けてあったが、因子分析を行ったところ両者がまとまって抽出されることとなった。そこで、因子負荷量の高い項目(.50

以上)を選び、期待水準14項目、期待確信度14項目、落胆・恥10項目、負の感情10項目、正の感情10項目、誇り10項目を採択することにした(最終的には、資料に示す全ての項目が採択された)。そして、それぞれの項目の合計点を各尺度得点とし、以下の分析に適用した。なお、尺度の信頼性係数( $\alpha$ 係数)は、.919から.964を示し、内部一貫性は十分高いと考えられる。

## 2. 「期待・感情 → 学習意欲 → 学習行動 → 体育の成績」について

本研究では、体育学習での期待や感情が体育における学習意欲(意欲的側面と回避的側面)に影響し、それらの意欲が学習行動を規定し、そして、学習行動が最終的に体育の成績を規定しているといった因果関係を想定している。この点を分析するために、重回帰分析を適用した。

表1 期待項目の回転後の因子負荷行列

項目番号	因 子		共通性	
	I	II		
1	0.794	0.083	0.637	
2	0.183	0.598	0.391	
現	3	0.500	0.180	0.282
	4	0.219	0.517	0.315
実	5	0.663	0.152	0.463
	6	0.070	0.630	0.402
の	7	0.764	0.120	0.598
	8	0.034	0.724	0.525
期	9	0.546	0.161	0.324
	10	0.004	0.669	0.448
待	11	0.788	0.134	0.639
	12	-0.046	0.621	0.388
	13	0.800	0.133	0.658
	14	0.174	0.739	0.576
<hr/>				
	15	0.738	0.143	0.565
	16	0.375	0.614	0.518
将	17	0.711	0.188	0.541
	18	0.391	0.596	0.508
来	19	0.594	0.196	0.391
	20	0.371	0.591	0.487
の	21	0.619	0.168	0.411
	22	0.310	0.662	0.534
期	23	0.647	0.184	0.453
	24	0.135	0.675	0.474
待	25	0.723	0.173	0.553
	26	0.317	0.664	0.541
	27	0.701	0.125	0.507
	28	0.198	0.680	0.502
<hr/>				
2乗和	7.487	6.144	13.631	
(%)	54.9	45.1	100.0	

表2 感情項目の回転後の因子負荷行列

項目番号	因 子				共通性	
	I	II	III	IV		
1	-0.233	-0.478	0.666	0.219	0.774	
2	-0.212	-0.443	0.671	0.214	0.738	
3	-0.227	-0.360	0.744	0.282	0.816	
4	-0.244	-0.481	0.663	0.212	0.777	
5	-0.248	-0.363	0.661	0.250	0.694	
現	6	0.286	0.658	-0.200	-0.063	0.559
	7	0.309	0.648	-0.165	-0.082	0.551
	8	0.310	0.657	-0.341	-0.065	0.649
実	9	0.344	0.672	-0.425	-0.092	0.760
	10	0.289	0.625	-0.370	-0.025	0.612
	11	0.066	-0.152	-0.001	0.708	0.529
感	12	-0.061	-0.060	0.075	0.703	0.508
	13	-0.219	-0.004	0.359	0.689	0.653
	14	-0.256	-0.114	0.375	0.628	0.615
情	15	-0.227	-0.016	0.382	0.581	0.536
	16	0.685	0.179	-0.170	-0.135	0.549
	17	0.720	0.214	-0.242	-0.095	0.633
	18	0.750	0.224	-0.158	-0.153	0.662
	19	0.733	0.241	-0.246	-0.196	0.695
	20	0.739	0.278	-0.170	-0.135	0.671
<hr/>						
	1	-0.218	-0.291	0.593	0.199	0.529
	2	-0.256	-0.309	0.693	0.249	0.705
	3	-0.233	-0.381	0.726	0.241	0.787
	4	-0.248	-0.399	0.691	0.255	0.764
予	5	-0.261	-0.342	0.653	0.269	0.685
	6	0.272	0.702	-0.281	-0.005	0.646
	7	0.305	0.745	-0.166	-0.054	0.679
	8	0.408	0.647	-0.354	-0.007	0.712
期	9	0.427	0.654	-0.380	-0.090	0.764
	10	0.372	0.680	-0.315	-0.091	0.709
	11	0.001	-0.095	0.001	0.736	0.551
感	12	-0.069	-0.093	0.057	0.756	0.588
	13	-0.234	0.053	0.402	0.667	0.665
	14	-0.217	0.069	0.407	0.660	0.653
情	15	-0.216	0.001	0.398	0.605	0.572
	16	0.678	0.347	-0.137	-0.100	0.610
	17	0.755	0.323	-0.214	-0.066	0.726
	18	0.783	0.318	-0.203	-0.128	0.772
	19	0.711	0.337	-0.192	-0.132	0.674
	20	0.648	0.348	-0.186	-0.098	0.586
<hr/>						
2乗和	7.226	6.891	6.852	5.348	26.317	
(%)	27.5	26.2	26.0	20.3	100.0	

表3 重回帰分析の結果

独立変数	従 属 変 数			
	< 学 習 意 欲 >			
	意欲的側面 (R=.747**)	回避的側面 (R=.626**)	学習行動 (R=.481**)	体育の成績 (R=.754)
学習行動				0.583**
学習意欲				
意欲的側面			0.172*	-0.021
回避的側面			-0.070	0.024
期待				
期待水準	0.350**	-0.167	0.043	0.339**
期待確信度	0.094*	-0.054	0.036	-0.104*
感情				
正の感情	0.487**	0.109	0.135	-0.019
負の感情	0.190**	0.109	0.026	-0.083
誇り	0.113*	0.083	0.041	-0.031
落胆・恥	0.070	0.508**	-0.149	-0.007

(R: 重相関係数、数値は標準偏回帰係数、\* P<.05、\*\* P<.01)

すなわち、第1ステップとして、AMPETの意欲的側面および回避的側面をそれぞれ従属変数、期待および感情の全ての尺度を独立変数とした重回帰分析を行い、第2ステップとして、学習行動を従属変数、意欲的側面・回避的側面と期待および感情の全ての尺度を合わせたものを独立変数とした重回帰分析を行い、そして最終の第3ステップでは、体育の成績を従属変数、学習行動、意欲的側面・回避的側面、期待・感情の全ての尺度を独立変数とした重回帰分析を適用した。得られた結果は、表3と図2に示されている。

まず、体育における学習意欲の意欲的側面には、期待や感情の落胆・恥を除く全ての尺度から有意な正のパス係数(標準偏回帰係数)が示された。この結果は、西田・澤<sup>10)</sup>の研究結果と一致しており、体育学習における期待や確信度が高いほど、また、正の感情や誇りが高いほど、体育学習における意欲的側面が高くなって

くることを示唆している。ところで、負の感情からも学習意欲の意欲的側面に正のパスが示されている。しかし両者の間には負の単相関が認められていることから、この結果は体育学習での負の感情が低くなれば学習意欲の意欲的側面が高くなっていくことを意味していると解釈されよう。いずれにしても、体育における学習意欲の意欲的側面は、期待や感情によって規定されていることが明らかになったと考えられる。

次に、体育における学習意欲の回避的側面についてであるが、感情の中の落胆・恥から有意な正のパスが認められた。しかし、期待や感情の他の尺度からは有意なパスは示されなかった。つまり、体育学習で生じる落胆・恥といった感情が強いほど体育学習での不安も高いという関係が示された。このことにより、学習不安を低くするために、体育学習において生じる劣等感をいかになくしていくかといった問題が提起されたと言えよう。

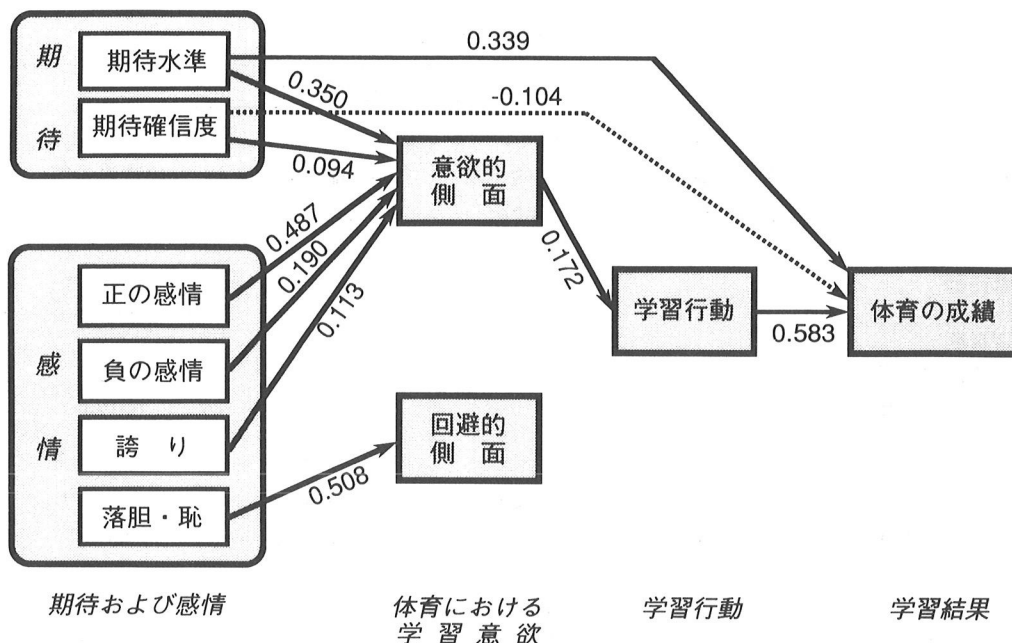


図2 期待・感情、学習意欲、学習行動、体育の成績のパスダイアグラム

体育の授業中の学習行動には、体育における学習意欲の意欲的側面から有意な正のパスが認められたが、期待や感情の各尺度、回避的側面からは有意なパスが示されなかった。この結果は、体育学習への意欲が高くなると体育の授業中に積極的な学習活動がみられることを示している。

最後に、体育の成績には、学習行動、期待水準から有意な正のパスが示されたが、学習意欲の意欲的側面、回避的側面、感情などからは有意なパスはみられなかった。体育の授業中に、学習方法を工夫したり積極的に努力したり運動するといった行動が多くみられると、体育の成績も高くなっていくことを示唆している。また、成功への期待や自分の運動能力が向上するのかどうかといった期待が高くなれば、体育の成績もよくなっていくものと考えられる。なお、期待確信度から有意な負のパス係数が認められたが、その値はかなり低いものであった。

さて、以上のパス解析の結果をまとめると、多少の例外はあるが、①体育学習での期待や感

情は、体育における学習意欲（特に意欲的側面）を規定し、②その学習意欲は、児童の学習行動を支え、また、③それらの学習行動は、体育の成績を規定していることが明らかになったと考えられる。これらの結果は、本研究の仮説を大枠として支持するものである。従って、体育学習で喚起される児童の現在あるいは将来の期待や感情が高くなれば、体育における学習意欲が強くなっていくこと、そして、その学習意欲が強ければ学習行動が活発になり、最終的には体育の成績がよくなっていくという因果関係が示されたと言える。また、落胆・恥といった劣等感情は、体育学習における不安には影響するが、授業中の学習行動や体育の成績には強い影響力を示さないことが明らかであった。この結果からすると、児童の学習行動を活発にし体育の成績を向上させるためには、期待や感情に支えられた体育における学習意欲（意欲的側面）を高めることが特に重要であると考えられる。

本研究で取りあげた学習行動や学習結果は、体育教師の評価に基づくものであった。体育に

おける学習意欲に支えられたこれらの指標を、児童・生徒の行動レベルから検討することも必要である。そして、体育における学習意欲を高めるための期待や感情を育てる実践的な研究が、今後の課題としてあげられる。

#### 〈付 記〉

本研究の資料収集にあたっては、滋賀県守山市教育委員会の澤 淳一先生、滋賀県守山市立吉身小学校の先生方や生徒の皆さんに大変お世話になりました。ここに記して深甚の謝意を表します。

#### 文 献

- 1) Atkinson, J.W. An introduction to motivation. Van Nostrand Co.:New York, 1964.
- 2) Bandura, A. Self-efficacy : toward a unifying theory of behavior change. Psychological Review, 84:191-215, 1977.
- 3) Deci, E.L. Intrinsic motivation. Plenum Press : New York, 1975 安藤延男・石田梅男訳 内発的動機づけ 誠信書房 1980.
- 4) Dweck, C.S. The role of expectations and attributions in the alleviation of learned helplessness. Journal of Personality and Social Psychology, 31:674-685, 1975.
- 5) 奈須正裕 「学業達成場面における原因帰属、感情、学習行動の関係」教育心理学研究、38-1:17-25, 1990.
- 6) 奈須正裕・堀野 緑 「原因帰属と達成関連感情」教育心理学研究、39-3:332-340, 1991.
- 7) 西田 保 「体育における学習意欲の尺度構成と類型化の検討」総合保健体育科学、10-1:47-60, 1987.
- 8) Nishida, T. Reliability and factor structure of the Achievement Motivation in Physical Education Test. Journal of Sport and Exercise Psychology, 10:418-430, 1988.
- 9) 西田 保 「体育における学習意欲検査 (AMPET) の標準化に関する研究—達成動機づけ論的アプローチ—」体育学研究、34:45-62, 1989.
- 10) 西田 保・澤 淳一 「体育における学習意欲を規定する要因の分析」教育心理学研究印刷中
- 11) 丹羽洋子 「児童の達成における原因帰属—感情反応について」教育心理学研究、37-1:11-19, 1989.
- 12) White, R. M. Motivation reconsidered : the concept of competence. Psychological Review, 66:297-333, 1959.
- 13) Weiner, B. (Eds.) Achievement motivation and attribution theory. General Learning Press : NJ, 1974.
- 14) Weiner, B. A theory of motivation for some classroom experiences. Journal of Educational Psychology, 71:3-25, 1979.

## 資料 期待および感情の質問項目

現実の期待	奇数番号：期待水準	偶数番号：期待確信度
1. 体育のたいいの運動は、 ほとんどうまくできないと思う (1) どちらともいえない (3) ほとんどうまくできると思う (5)	(1) (3) (5)	たぶんうまくできないと思う (2) たぶんうまくできると思う (4)
2. あなたはそれを、どのくらい信じることができますか あまり信じていない (1) きっとそうなると信じている (3)	(1) (3)	おそらくそうなると信じている (2) 非常に強くそうなると信じている (4)
3. 体育のじゅぎょうで試合やきょうそうをしている時、 ほとんど負けると思う (1) たぶん勝てると思う (4)	(1) (4)	たぶん負けると思う (2)      どちらともいえない (3) ほとんど勝てると思う (5)
4. あなたはそれを、どのくらい信じることができますか あまり信じていない (1) きっとそうなると信じている (3)	(1) (3)	おそらくそうなると信じている (2) 非常に強くそうなると信じている (4)
5. 体育のじゅぎょうではじめて習う運動は、 ほとんどじょうずにできないと思う (1) どちらともいえない (3) ほとんどじょうずにできると思う (5)	(1) (3) (5)	たぶんじょうずにできないと思う (2) たぶんじょうずにできると思う (4)
6. あなたはそれを、どのくらい信じることができますか あまり信じていない (1) きっとそうなると信じている (3)	(1) (3)	おそらくそうなると信じている (2) 非常に強くそうなると信じている (4)
7. 体育のじゅぎょうでは、他の人よりも ほとんどうまくできないと思う (1) どちらともいえない (3) ほとんどうまくできると思う (5)	(1) (3) (5)	たぶんうまくできないと思う (2) たぶんうまくできると思う (4)
8. あなたはそれを、どのくらい信じることができますか あまり信じていない (1) きっとそうなると信じている (3)	(1) (3)	おそらくそうなると信じている (2) 非常に強くそうなると信じている (4)
9. 体育のじゅぎょうで走ることを学習している時、きれいなフォームで ほとんど走れないと思う (1) たぶん走れると思う (4)	(1) (4)	たぶん走れないと思う (2)      どちらともいえない (3) ほとんど走れると思う (5)
10. あなたはそれを、どのくらい信じることができますか あまり信じていない (1) きっとそうなると信じている (3)	(1) (3)	おそらくそうなると信じている (2) 非常に強くそうなると信じている (4)
11. 体育のじゅぎょうで、よいせいせきが ほとんどとれないと思う (1) たぶんとれると思う (4)	(1) (4)	たぶんとれないと思う (2)      どちらともいえない (3) ほとんどとれると思う (5)
12. あなたはそれを、どのくらい信じることができますか あまり信じていない (1) きっとそうなると信じている (3)	(1) (3)	おそらくそうなると信じている (2) 非常に強くそうなると信じている (4)
13. 体育のじゅぎょうで運動している時、 ほとんどうまくできないと思う (1) どちらともいえない (3) ほとんどうまくできると思う (5)	(1) (3) (5)	たぶんうまくできないと思う (2) たぶんうまくできると思う (4)
14. あなたはそれを、どのくらい信じることができますか あまり信じていない (1) きっとそうなると信じている (3)	(1) (3)	おそらくそうなると信じている (2) 非常に強くそうなると信じている (4)



体育学習の期待・感情、学習意欲、学習行動、体育の成績

将来の期待	奇数番号：期待水準	偶数番号：期待確信度
15. 体育で習っている運動が、これから先には		
ほとんどじょうずにできないと思う (1)		たぶんじょうずにできないと思う (2)
どちらともいえない (3)		たぶんじょうずにできるようになっていくと思う (4)
かならずじょうずにできるようになっていくと思う (5)		
16. あなたはそれを、どのくらい信じることができますか		
あまり信じていない (1)		おそらくそうなると信じている (2)
きっとそうなると信じている (3)		非常に強くそうなると信じている (4)
17. 運動の記録が、これから		
どんどんさがっていくと思う (1)		たぶんさがっていくと思う (2)
どちらともいえない (3)		たぶんあがっていくと思う (4)
かならずあがっていくと思う (5)		
18. あなたはそれを、どのくらい信じることができますか		
あまり信じていない (1)		おそらくそうなると信じている (2)
きっとそうなると信じている (3)		非常に強くそうなると信じている (4)
19. 体育のとくいな運動は、これから		
ほとんどうまくできないと思う (1)		たぶんうまくできないと思う (2)
どちらともいえない (3)		たぶんうまくできるようになっていくと思う (4)
かならずうまくできるようになっていくと思う (5)		
20. あなたはそれを、どのくらい信じることができますか		
あまり信じていない (1)		おそらくそうなると信じている (2)
きっとそうなると信じている (3)		非常に強くそうなると信じている (4)
21. とんだり走ったりする能力が、これから		
ほとんどのびていかないと思う (1)		たぶんのびていかないと思う (2)
どちらともいえない (3)		たぶんのびていくと思う (4)
かならずのびていくと思う (5)		
22. あなたはそれを、どのくらい信じることができますか		
あまり信じていない (1)		おそらくそうなると信じている (2)
きっとそうなると信じている (3)		非常に強くそうなると信じている (4)
23. 体育のにがてな運動は、これから		
ほとんどじょうずにできないと思う (1)		たぶんじょうずにできないと思う (2)
どちらともいえない (3)		たぶんじょうずにできるようになっていくと思う (4)
かならずじょうずにできるようになっていくと思う (5)		
24. あなたはそれを、どのくらい信じることができますか		
あまり信じていない (1)		おそらくそうなると信じている (2)
きっとそうなると信じている (3)		非常に強くそうなると信じている (4)
25. じょうずに運動する能力が、これから		
ほとんどのびていかないと思う (1)		たぶんのびていかないと思う (2)
どちらともいえない (3)		たぶんのびていくと思う (4)
かならずのびていくと思う (5)		
26. あなたはそれを、どのくらい信じることができますか		
あまり信じていない (1)		おそらくそうなると信じている (2)
きっとそうなると信じている (3)		非常に強くそうなると信じている (4)
27. 体育のせいせきが、これからは、今よりも		
ほとんどよくなると思う (1)		たぶんよくなると思う (2)
どちらともいえない (3)		たぶんよくなっていくと思う (4)
かならずよくなっていくと思う (5)		
28. あなたはそれを、どのくらい信じることができますか		
あまり信じていない (1)		おそらくそうなると信じている (2)
きっとそうなると信じている (3)		非常に強くそうなると信じている (4)

現実感情

〈一般的正の感情〉

1. 体育のじゅぎょう中は、とても楽しい気分である
2. 体育のじゅぎょうは、いろんな運動があつておもしろい
3. 体育のじゅぎょうが始まると、うれしくてうきうきする
4. 体育のじゅぎょうが、大好きである
5. 体育のじゅぎょうは、とても気分がよい

〈一般的負の感情〉

6. 体育の時間になると、不ゆかいな気分になる
7. 体育のじゅぎょうが始まると、なんとなくゆううつな気分になる
8. 体育のじゅぎょうが近づくと、悲しい気分になる
9. 体育の時間になると、いやだなあと思う
10. 体育の時間は、なんとなく暗い気分になる

〈誇り〉

11. 運動がうまくできそうなので、人にじまんしたい感じがする
12. 自分がじょうずに運動しているところを、みんなに見せたい気持ちがする
13. 自分は、どんな運動でもうまくできる人間だと感じる
14. 体育のじゅぎょう中、とくいな気持ちになる
15. たいていの運動はうまくできるので、自分をほこりに思う

〈落胆・恥〉

16. 運動がうまくできそうにないので、自分はだめな人間だなあと感じる
17. みんなの前で失敗しそうなので、かっこ悪い気持ちになる
18. 自分だけがうまくできないようなみじめな気持ちがする
19. 運動が人よりもうまくできないので、はずかしい気持ちがする
20. いくらがんばっても、自分は運動がじょうずにできないのでがっかりした気持ちになる

予期感情

〈一般的正の感情〉

1. 次の体育の時間には、何かおもしろいことがあると思う
2. 体育の時間が、今よりもっと好きになると思う
3. 次の体育のじゅぎょうは、とても楽しいと思う
4. 次の体育の時間が早くこないかと、わくわくした気分になる
5. 次の体育の時間は、きっと気分がよいと思う

〈一般的負の感情〉

6. 次の体育の時間になると、不ゆかいな気分になりそうだ
7. 次の体育のじゅぎょうが始まると、なんとなくゆううつな気分になりそうだ
8. 次の体育のじゅぎょうが近づくと、悲しい気分になりそうだ
9. 次の体育の時間になると、いやだなあと思う
10. 次の体育の時間は、なんとなく暗い気分になりそうだ

〈誇り〉

11. これからも運動がうまくできそうなので、人にじまんしたい感じがすると思う
12. これからも自分がじょうずに運動しているところを、みんなに見せたい気持ちがすると思う
13. 次の体育の時間でも、自分はどんな運動でもうまくできる人間だなあと感じるだろう
14. 次の体育のじゅぎょうで新しい運動を習う時も、うまくできるのでとくいな気持ちになると思う
15. 次の体育のじゅぎょうでも、たいていの運動はうまくできるので自分をほこりに思うだろう

〈落胆・恥〉

16. 次の体育の時間も運動がうまくできそうにないので、自分はだめな人間だと感じるだろう
17. 次の体育の時間も失敗しそうなので、かっこ悪い気持ちになりそうだ
18. 次の体育の時間も、自分だけがうまくできないようなみじめな感じがするだろう
19. 次の体育の時間も人よりうまくできそうにないので、はずかしい気持ちになりそうだ
20. これからいくらがんばっても、自分は運動がじょうずにできないのでがっかりするだろう

(1992年12月2日受付)